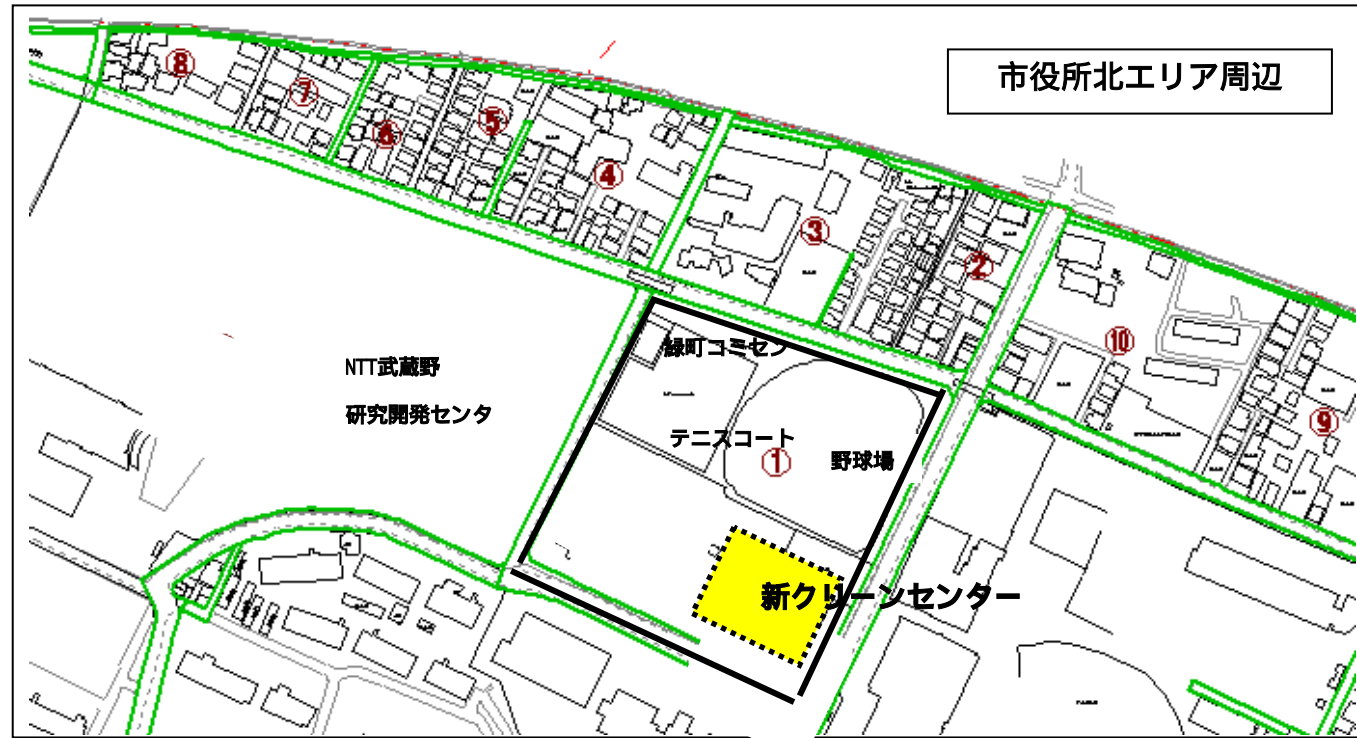


# 配置・動線計画の考え方

## 【市の基本的な考え方】(参考)

### 市役所北エリアの配置計画

新施設の配置は周囲の影響を考慮して、都市計画で定められた範囲で、北側に寄らない現施設の東側に配置します。また、残りのエリアについて、野球場、テニスコート、緑町コミュニティセンター、緑を含めた現状の配置を前提としながら、新施設とこれら施設が融合し、エリア全体が緑と一体化した景観と、環境負荷の軽減を図った施設整備を検討してまいります。



### 都市計画で定められた範囲

都市計画法第11条

都市計画区域については、都市計画に、次に掲げる施設に必要なものを定めるものとする。この場合において、特に必要があるときは、当該都市計画区域外においても、これらの施設を定めることができる。

三 水道、電気供給施設、ガス供給施設、下水道、汚物処理場、ごみ焼却場その他の供給施設又は処理施設

### 都市計画決定図



焼却施設として都市計画で決定されている範囲

●ごみ焼却場 平成16年11月15日 武蔵野市告示第142号

番号	名称	位置	面積 (ha)	備考
1	武蔵野クリーンセンター	緑町三丁目地内	約1.7	処理能力1950/日 650/日3炉

●ごみ処理場 昭和56年6月3日 武蔵野市告示第32号

番号	名称	位置	面積 (ha)	備考
1	武蔵野粗大ごみ処理場	緑町三丁目地内	約1.7	処理能力500/日

## 配置・動線計画を検討するにあたり

配置・動線計画を作成するにあたり、以下の4つの段階を想定しながら決定していく。

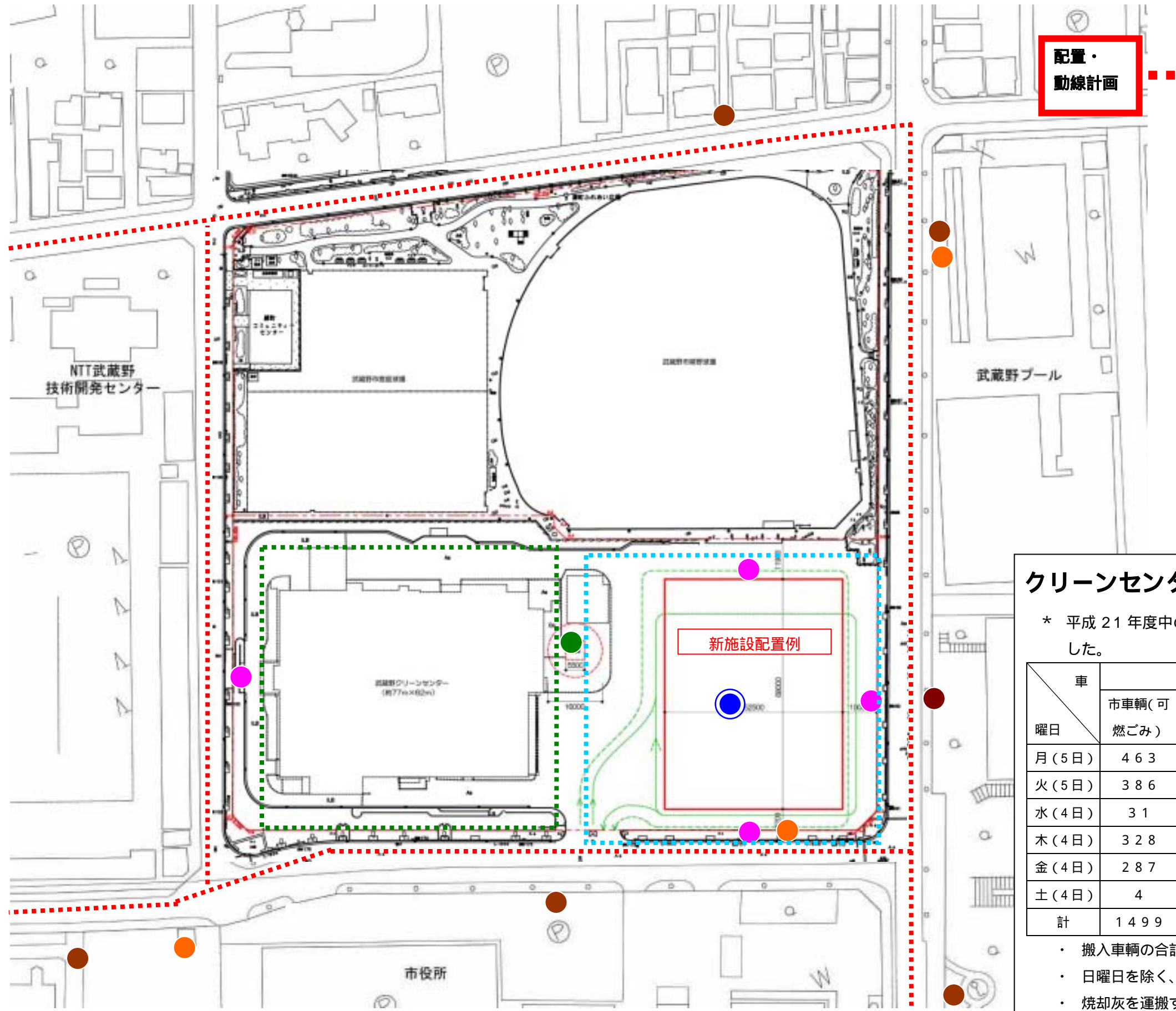
- 現施設を稼働しながら工事を進める 工事期間中の動線
- 新施設完成後、現施設を停止し、新施設を稼働させる 新施設稼働（現施設解体前）
- 新施設を稼働させながら、現施設の解体作業を行う 新施設稼働（現施設解体中）
- 現施設の解体が終了し、付帯施設等本設し、最終形となる 新施設稼働（最終形）

## 新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設規模等

1. 敷地面積：1.7ha
2. 都市計画（用地地域：第一種住居地域、建ぺい率：60%、容積率：200%、準防火地域、第二種高度地区、日影規制：4時間、2.5時間）
3. 道路：(南)市道第212号線（幅員15m）(東)市道第17号線（幅員15m）  
(西)市道第212号線（幅員9m）  
(北)市道第41号線（幅員10.85m）\*当該敷地に接道していない
2. 施設規模：焼却施設120t/日 粗大・不燃処理施設10t/日
3. 建築面積：約5,000㎡
4. 本体施設：焼却施設、粗大・不燃処理施設、事務所機能、見学者ホール・コース機能
5. 付属施設：洗車場  
計量棟  
ストックヤード（収集・運搬の効率性から新施設にストックヤードを確保）  
啓発施設：普及啓発・情報発信機能を確保
6. 東京都駐車場条例に基づく付置義務駐車場
7. 緑化基準：東京都自然保護条例による敷地20%以上の緑化

## 車両の搬出入口

1. 収集車両の搬出入口は、現施設と同じ南側道路とする。
2. 工事中については、安全を確保する中で動線経路を決定する。



凡 例	
● (Blue)	一般環境大気質 地上気象・上層気象 ( )
● (Orange)	沿道環境大気質 道路交通騒音・振動・交通量 ( )
● (Pink)	悪臭 (臭気指数(濃度)) 環境騒音・振動・低周波音 ( ~ )
● (Green)	既存施設 発生源 (煙突: 1地点) - 水銀 - 臭気指数(濃度)
■ (Green Dotted)	既存施設 発生源 (換気口等) - 水銀・VOC・粉じん等 (換気口等: 1地点) - 低周波音 (設備等: 適宜)
■ (Blue Dotted)	地下水水位 (3地点)
● (Brown)	景観 ( ~ )
■ (Red Dotted)	地域社会 ( ~ ) (交通安全施設の設置状況)

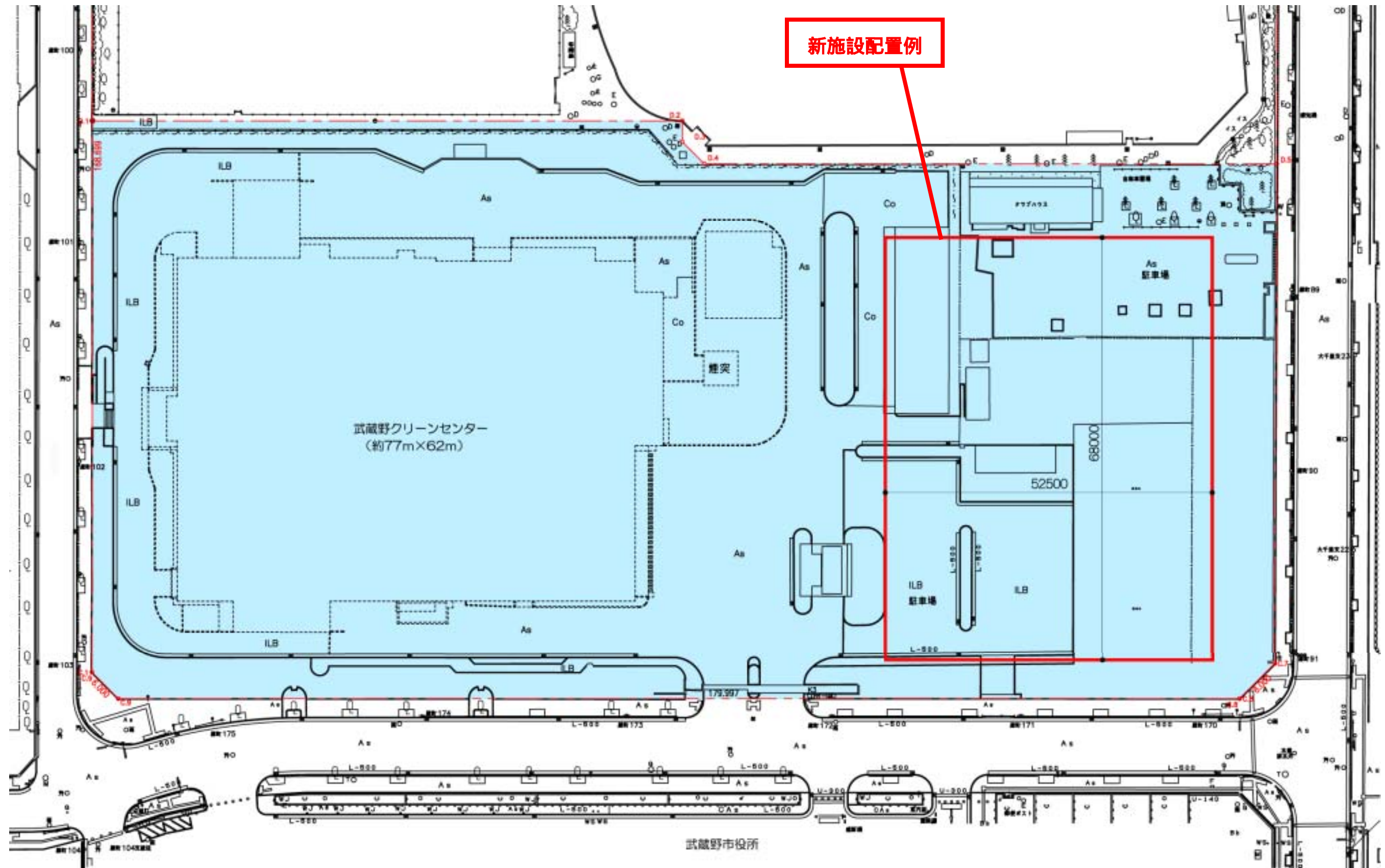
### クリーンセンター搬入出車両について

\* 平成 21 年度中の月別搬入出車両のデータから、搬入出車両の一番多い6月としました。  
(単位: 台)

車 曜日	搬入車両				搬出車両	
	市車輛(可 燃ごみ)	市車輛(不燃ごみ +粗大ごみ)	業者(事業系 可燃ごみ)	一般持込 (市民など)	焼却灰	資源物
月(5日)	463	75	155	61	10	8
火(5日)	386	71	111	47	14	16
水(4日)	31	123	92	39	8	8
木(4日)	328	79	85	39	8	12
金(4日)	287	77	120	48	8	8
土(4日)	4	0	86	48	0	0
計	1499	425	649	282	48	52

- ・ 搬入車両の合計は、2855台
- ・ 日曜日を除く、一日平均は、約110台
- ・ 焼却灰を運搬する車両は、10tを積載可能な大型車両
- ・ 資源物を運搬する車両は、6tを積載可能な大型車両

# 都市計画の位置と現況



## 新武蔵野クリーンセンター（仮称）テーマ

< 協議会の基本コンセプト（案） 2010.04.19 第1回協議会 >

### 【メインテーマ】

‘まちに溶け込む次世代型市民施設’としてイメージ転換を図り、周辺地域のまちづくりの核とする。（策定委員会との共通テーマ）

‘（仮称）新武蔵野クリーンセンター’は、環境面、安全面、効率面、そして周辺地域のまちづくり面などについて、そのいずれをも保障しつつ、現クリーンセンターよりさらに市民に親しまれ、まちと共に在り、プラスを創造する高次な施設であるべきとする。

**周辺地域のまちづくりは、環境と共生する循環型社会を創造する都市を構築する。**

### 【個別テーマ】

#### 1. 施設・周辺整備の考え方

##### (1) 施設整備

- ・ 環境をテーマとした施設づくりを目指す。
- ・ 市民に親しまれ、まちと共に在り、プラスを創造する高次な施設づくり
- ・ 地域に開かれた施設づくりを目指す。  
都市施設としての価値を高める。

##### (2) エリア整備

- ・ 新施設、野球場、テニスコート、緑町コミュニティセンターが融合し、周辺地域のまちづくりの核となることを目指す。
- ・ 積極的な緑化や自然エネルギー利用、明るく開放的な施設づくり、ユニバーサルデザインの採用など、市民に親しまれ、環境にやさしいまちづくりを実現する。

##### (3) 周辺のまちづくり

- ・ 市役所北エリアを中心に、市役所、総合体育館、NTT 研究所、住宅団地、周辺住宅地を含め、自然環境を共生したまちを形成する。

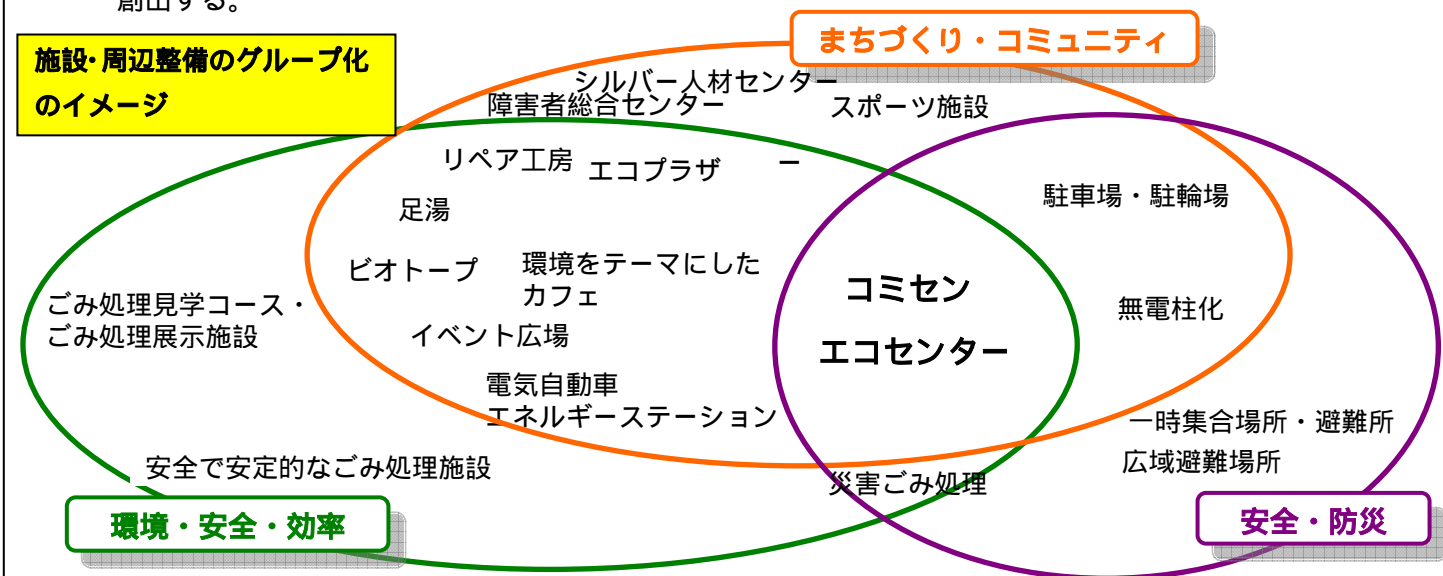
#### 2. 安全で安心な施設づくりと運営

- ・ 新施設は安全で安定的なごみ処理施設を実現する。
- ・ 生活環境への影響をださないように、生活環境影響調査を実施し、将来の予想を行い、安全性を確認する。
- ・ 稼働後も安全な施設であるため、運営協議会方式を継続、発展させる。

## 【協議会の進捗に伴う「個別テーマ」の具体化】（案）

‘まちに溶け込む次世代型市民施設’を実現するための個別コンセプト

- 施設・まちづくりの基本的な考え方 “エコ” でつなぐ周辺まちづくり -  
今回の施設・まちづくりをより広い視野で捉えて、市役所北エリア・緑町三丁目・NTT 研究所・体育館・市役所・緑町パークタウンなどを含む周辺一帯を、環境共生型の都市生活を実現するシンボルゾーン（エコロジー・ゾーン）と位置づけて、それにふさわしい施設・まちづくりを行う。
- (1) 環境にやさしい施設「次世代型市民施設（エコセンター）」をつくる...【環境】環境・安全・効率（省エネ）
  - ・ クリーンセンターを「エコセンター」と位置づけ、廃熱を可能な限り再利用することを実現する。
  - ・ 地球温暖化を考える「エコプラザ」を設置する
  - ・ 新武蔵野クリーンセンターからの排ガスや騒音・振動、悪臭等による周辺への影響の軽減を図る。
  - ・ クリーンセンター周辺は、本市において緑多い地域であり、さらに緑の環境整備を進める。
- (2) 新クリーンセンターと防災 .....【防災】
  - ・ 新武蔵野クリーンセンター周辺と広域避難場所
  - ・ 新武蔵野クリーンセンターと災害ごみ処理
- (3) クリーンセンターを核とするまちづくり .....【まちづくり・コミュニティ】
  - ・ 緑豊かな「環境共生・生活文化創造都市むさしの」の中核となるシンボルゾーン
  - ・ 地域力を活用したまちをつくる
  - ・ 市民の様々な活動に寄与するスペース・エリアとする。
  - ・ 新たなライフスタイルや活動の後押しができるような仕組みをつくる。
  - ・ 新たな雇用創出に寄与するようなまちをつくる。
  - ・ 新クリーンセンターは地域に開かれたオープンな施設・エリアとする。
  - ・ スポーツ施設やコミセンと周辺住宅をつなぐ、多くの市民が触れ合うことのできるコミュニティスペースを創出する。



テーマ	大項目	中項目	課題・提案	想定施設整備内容	想定エリア整備内容	想定周辺整備内容
環境 安全	新クリーンセンターは安全で安定的なごみ処理施設を実現する。		新クリーンセンターからの排ガスや騒音・振動、悪臭等による周辺への影響の軽減を図る。	排ガスの自主規制の強化（全国トップレベル）		
環境 エコ	クリーンセンターを「エコセンター」と位置づけ、廃熱を可能な限り再利用することについては是非とも実現する。 低炭素社会のモデル（例：つくば環境スタイル）	新クリーンセンターで生み出したクリーンエネルギーの利用	発電を利用した電気自動車のエネルギーステーションを設置し、公用車やムーバスを電気自動車として運行する。 市民が使える電気自動車貸出し（荷物を運ぶ、障がい者、高齢者の送迎など） 熱利用において、限りあるものなので、効率よく発電に使って。 太陽光発電よりも風力発電はどうか。	ごみ発電、太陽光発電、風力発電等 電気自動車の利用		
		地球温暖化を考える「エコプラザ」を設置する	リペア工房＋販売所 エコ関係のネットワークの拠点 環境について楽しく学べる体験できる場所 ごみ処理やリサイクルの仕組みが楽しみながら理解できる展示施設や見学コースの設置 安全策が見える施設づくり	リサイクル工房、学びのスペース、見学者ホール		
		エコな周辺まちづくり	低炭素型社会のモデル地区と位置づけてはどうか。あえて、ごみを燃やしている地域において、高い目標を立ててCO2削減に望んでいくのはどうか。送電ロスが少ない電線地中化も盛り込んで良いのではないかと。 街路灯を太陽エネルギーやクリーンセンターの発電により生み出された電気を利用したものとする。			クリーンセンター周辺の無電柱化 新エネルギー利用の街路灯
環境 自然環境	クリーンセンター周辺は、本市において緑多い地域であり、さらに緑の環境整備を進める。	クリーンセンターを中心としたエリアの緑環境整備	センターの周りに花の回廊を作ってほしい 緑のスペースの充実 まわりにお花（植物）を飾ってほしい まわりに植物や花を植えてほしい 現在ある野球場及びテニスコートの場所を、四季の花を鑑賞できる公園にして、公園内の歩道は、車椅子でも通れる余裕をもった道幅とし、武蔵野市の新名所とする。花を鑑賞することは、子どもの情操教育につながり、全年齢層の癒しにもなると考えられる。また、市民の憩いの場、ふれあいの場となり、崩壊してしまった地域社会を復活させる効果も考えられる。 ビオトープ	エリア整備のさらに緑化の増植 ビオトープ		
		クリーンセンター周辺の緑環境の充実	千川上水沿いの都市計画道路整備のあり方の検討とともに、遊歩道の整備や緑の管理について検討を行う。 市の資材置き場を撤去し、公園として整備する			千川上水整備計画

テーマ	大項目	中項目	課題・提案	想定施設整備内容及びキーワード	想定エリア整備内容及びキーワード	想定周辺整備内容及びキーワード
防災	クリーンセンター周辺は市役所、NTT 研究センタ、中央公園、パークタウン一体が広域避難場所である。 防災センターを中心に災害時に拠点となる。	広域避難場所としての対応	防災センター、NTT 研究センタとの連携 防災避難路として重要な 41 号線及び防災センターへのルート整備（防災上電線類地下化の促進は優先順位が高い）	広域避難場所		
		クリーンセンターと防災	野球場地下 防災倉庫設置、防災拠点化	災害ごみ処理		
まちづくり・コミュニティ ：まちづくり	クリーンセンターを核とするまちづくり 周辺の公園と一体になった、明るく、入りやすい雰囲気建物	環境共生	市役所北エリア・緑町三丁目・NTT 研究所・体育館・市役所・緑町パークタウンなどを含む周辺一帯を、緑豊かな「環境共生・生活文化創造都市むさしの」の中核となるシンボルゾーンとして、それにふさわしい施設・まちづくりを行う。	緑豊かなまち <b>環境</b> ：自然環境へ		
		快適で歩きやすいまち	市役所北エリア側の歩道の拡幅 クリーンセンターの周りは歩きやすい そんな歩道 市役所側から北側に抜けられる遊歩道の設置		周辺歩道整備 41 号線の歩道整備 新クリーンセンター内遊歩道整備	
		交通	タクシー乗り場の併設など交通の利便性向上 バスルート見直し+横方向ルート（施設利用を高めるためのムバスネットワークの改良） 駐車場の相互利用調整により、新たなオープンスペースを生み出す（コミュニケーション）		240 号線の道路整備とバス路線追加	
まちづくり・コミュニティ ：コミュニティ	地域力を活用したまちをつくる 地域に開かれたオープンな施設として、市民にとって入りやすい場所にする。 多くの市民が使えるよう魅力的で利便性の高い公共施設エリアを目指す。 既存の環境、資源、施設を効率よく利用し、ムダを少ない都市像を示す。 新たな市民施設の建設により市民の様々な活動に寄与し、新たなライフスタイルや活動の“後押し”をする。	コミュニティ	地域住民が気軽に利用できるカフェや小さい子供連れで利用できるスペース（自家製ハーブ茶サービスコーナー、賞味期限切れのお店、生ごみ堆肥を使った野菜やハーブを利用、余熱利用パン工場） 足湯 イベント対応ではなく、日常的なものとして使われる施設。例えば、クリーンセンターの蒸気を利用して衣服乾燥が出来るコインランドリー的なもの。 ごみを中心とした様々な活動を地域通貨で行う。	コミュニケーション・カフェ 足湯		
		集う（イベント広場）	フリーマーケット 新クリーンセンターに、他の施設にはないスペース（工房、屋根のある広場）を用意し、相互の利用を高める。 クリーンセンターと市役所と道を含んで、一体的にイベントができるスペースを創出する	イベント広場		
		コミュニティの場	緑町コミセンの課題（会議室が足りない、屋内スポーツの練習場（バドミントン、卓球など）や駐輪場を、エレベーターを付けて欲しい） ホール・共有スペース（とりあえず場所を確保することも大事。集まってきて何かが出来る場所。自由に発表をしたり。立地の強みとして、市役所が近いというものがある。単純に、100㎡欲しい！など。）（協） 周辺住民が利用できる会議室や集会施設の設置 都営住宅未利用地の活用（中島飛行機の変電所建物の保存）	緑町コミセンの利用状況と新クリーンセンターの施設利用 周辺地域の会議・集会施設の箇所と利用状況		
		就業支援	従来のシルバー人材センターが行っているリサイクル機能だけではなく、環境をテーマにした社会的起業や若者の就業支援につながる機能を持たせる。（パ） 余熱を効率よく利用したパン工房などを設置して、多くの人が集えるようにするとともに、障害者総合センターと連携して運営することで、障害者の雇用機会を創出する。	障害者総合センター、シルバー人材センターとの連携		
	スポーツ施設との連携	観客席をクリーンセンターの北側外壁（屋根）でつくる。 野球場のイベント開放、子ども達の遊び場としての開放				

## 温浴施設実現に向けた考え方の整理

### 1. 温浴施設検討の必要性

新クリーンセンターの施設整備イメージのなかで、熱源としての利用を想定した温浴施設の要望が出されている。温水利用の要望は、現クリーンセンター建設当初から出されていた意見であり、何らかの形で実現できる方策を話し合う必要がある。

#### ○エコフェスタ、施設・周辺整備協議会の意見

- ・足湯、岩盤浴
- ・健康ランド、温泉
- ・いやしのスポット（ジャグジーバス、マッサージスペース）

新クリーンセンター検討イメージのなかに足湯が含まれているが、現在話し合われている「(仮称)リサイクルプラザ」やエコ活動、環境学習との結びつきはあまり感じられない。また、新クリーンセンターは、余熱から電気エネルギーへ施設が供給するものが変わるため、「ごみ」や「リサイクル」との結びつきをPRする装置として、「足湯」が理解されるか、懸念がある。

永続的な施設として、温浴施設の利用や運用を目指すのであれば、現行の温水プールとこれからつくることを検討する足湯を含む温浴施設の内容や目的を整理し、施設・周辺整備計画の中での位置づけを明確にするべきであると考え。

### 2. 現在の温水施設の課題

#### ① 市民プールの課題

- 新クリーンセンター建替に伴いエネルギーの切り替えが必要となる可能性が高い。
  - ・新クリーンセンター稼働時には、プールの設備の更新が必要となる。(現在20年)
- プールの利用が個人、団体に限られ、健康づくりプログラム等へ広がりが見られない。
  - ・個人利用と団体利用を主に施設を運用している。
  - ・スポーツ振興財団は、プール管理者としてプールのスポーツ利用を担当、健康支援センターは、既存施設への人材派遣等により健康づくりを担う。
- プールの管理棟が温水プール利用に適していない。
  - ・温水プール建設時に既往施設を改修したもので、老朽化が見られ、更衣室等が寒い。
  - ・温浴と組み合わせた体操等のプログラムが可能なスペースがない。

#### ② 四中プールの課題

- 市民プールと同じエリアに二つの温水プールを今後も運営するべきか。
  - ・市民プールと同様エネルギーの切り替えが必要となる可能性が高い。
  - ・維持管理費と費用対効果の検証が必要。
  - ・市民利用に適したつくりとなっていない。

### 3. 温浴施設の方向性

要望や上記の検討課題から温浴施設について大きく3つの方向性が考えられる。いわゆる地元還元施設として整備するのではなく「スポーツ振興計画」に沿った方向づけを行い全市的な施設とすることが望ましい。

#### ①新 クリーンセンターの敷地内に足湯として整備

参考例：こもれびの湯（小村大組合清掃工場）

##### 検討課題

- 屋内施設（健康増進施設）とする場合：
  - ・健康運動プログラムとの連携
  - ・プログラムを企画、運用する担当者（団体）
- 屋外施設（公園的利用）とする場合：
  - ・散歩コースやジョギングコースなどとの結びつき
  - ・安全や衛生面の管理方法、管理者。

#### ②新 クリーンセンターの敷地内に足湯イベントができる設備を整備

参考例：エコフェスタ等で実施

##### 検討課題

- 現在のイベントの実績を踏まえた新たな展開

#### ③市民プール内に設備改修に合わせて温浴施設を整備

参考例：近年、公営のスポーツでは、[アリーナ、トレーニング室、温水プール（25m、幼児用、歩行用）、ジャグジー、会議室]等を備え、競技利用だけでなく、スポーツから健康づくりまでのプログラムを提供する施設が出来ている。指定管理者として、民間のフィットネス専門企業が運営している例や、PFI事業で行っている例もある。

##### 検討課題

- 市民プール、四中プールを含めた無駄のない施設設定と事業手法